

令和3年度 独立行政法人福祉医療機構
社会福祉振興助成事業

コロナ禍で声をあげにくい人々が
相利共生にて自信を取り戻す事業

実施報告集



非営利任意団体 ちたハンターズ 理事 外山果見（大善院住職）

ひきこもりとは、不登校で学校にも行かなくなったり、就職しないで仕事をすることもなく、家族や周りの人とのかかわりを遮断して部屋にこもっている人だと思っていました。

しかし、ちたハンターズの熊倉さんを知ってから単純に分けられるものではないことが、理解できるようになりました。

年齢や性別、家庭環境も実にまちまちで、本人の性格や友だちなど人間関係が問題になり閉じこもる場合もあります。一方では外出できる人もいて、千差万別のかたちがあります。

事業の一環として、当院境内の景観整備をご本人や親御さんと一緒にしたあと歓談しましたが、実に数か月に渡る家庭訪問にて実行できた人もいたようでした。家族からの相談を受けて、ご本人と会話ができ信頼関係を得るまでには心理的要素が大きく、粘り強い忍耐が要ります。

生活を支えるには、アルバイトや就職の紹介もありますが、生活保護になると社会的な要素である「ひきこもり地域支援センター」との連携も必要です。

全国に 61 万人以上いるといわれるひきこもりが、長期に渡ればご本人とご家族の高齢化も心配になってきます。孤立化することのない、支え合いができる地域社会であって欲しいものです。



ひきこもり 5つの質問



質問1 知多半島には、どのくらい「ひきこもりの人」がいるのですか？
 答え 知多半島（5市5町）では、約 5844 人と推計されます。

知多半島（5市5町）におけるひきこもり人数 ※

各市町	15 歳～39 歳	40 歳～64 歳	人数合計
半田市	530 人	572 人	1102 人
常滑市	256 人	282 人	538 人
東海市	508 人	548 人	1056 人
大府市	404 人	440 人	844 人
知多市	384 人	409 人	793 人
阿久比町	126 人	137 人	263 人
東浦町	223 人	241 人	464 人
南知多町	85 人	87 人	172 人
美浜町	107 人	106 人	213 人
武豊町	193 人	206 人	399 人
5 市 5 町合計	2816 人	3028 人	5844 人

※平成 27 年度 内閣府調査（15～39 歳）5000 人抽出、及び平成 30 年度 内閣府調査（40～64 歳）5000 人抽出を下に、愛知県人口動向調査、知多半島の統計より概算。人数合計は、年度が異なることに注意。



質問2 ひきこもりとは、そもそも何ですか？

答え 家族以外の人と、半年以上話すことが困難な状態な人です。

ひきこもりの定義

様々な要因の結果として社会的参加（義務教育を含む就学，非常勤職を含む就労，家庭外での交遊など）を回避し，原則的には6 ヶ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）を指す現象概念である。

なお，ひきこもりは原則として統合失調症の陽性あるいは陰性症状に基づくひきこもり状態とは一線を画した非精神病性の現象とするが，実際には確定診断がなされる前の統合失調症が含まれている可能性は低くないことに留意すべきである。

厚生労働省「こころの健康科学研究事業」齋藤班（2007）より

ひきこもりについては、上に記した定義が、ひきこもり支援に携わる人の間では周知されています。その一方、定義がなかなか分かりにくいという方には、以下の例文を参考にいただけると良いでしょう。

例文：Aさんがある日、コンビニエンスストアへ飲み物を買いに出かけました。すると、そこで偶然にも幼なじみのBさんが店員として働いていました。Aさんに気付いたBさんは、「Aさん久しぶり！最近はどうしてるの？」と声をかけましたが、Aさんは言葉を返さず、飲み物も買わないまま、お店を立ち去りました。又、その後、そのお店の利用を避けるようになりました。

ひきこもり状態になると、ひきこもりになる前の自分を知る人との会話が困難になります。これは、ひきこもり状態にある自分を知られたくないという、強い気持ちがあるからです。

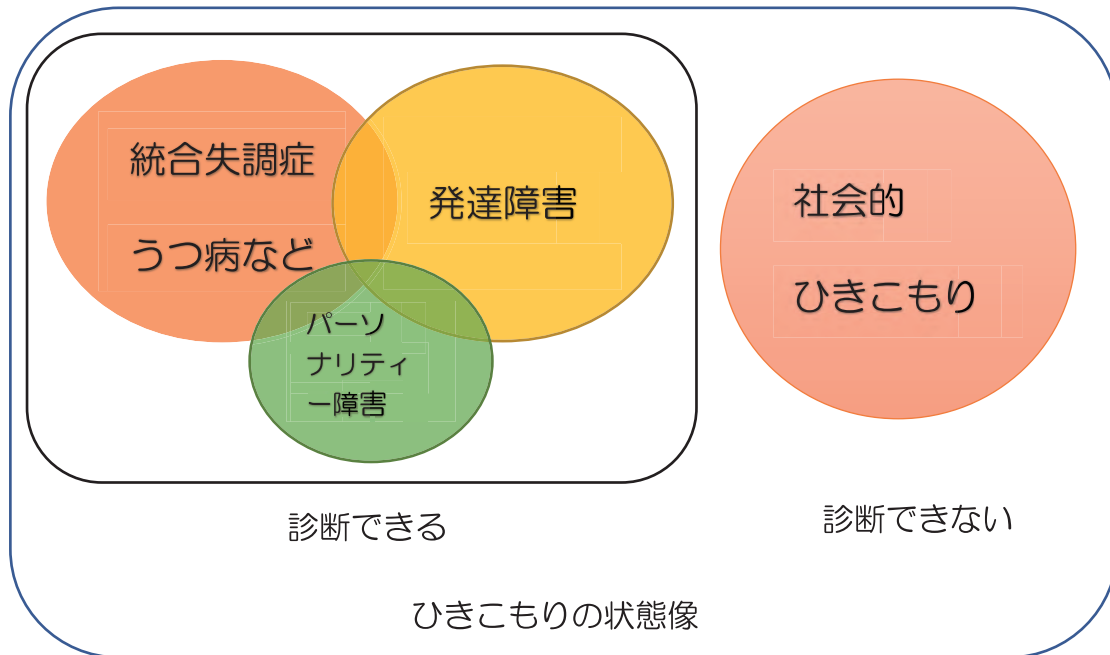
その人が、ひきこもりかどうかを判断するには、外出先で知人と気軽に会話できるかどうか、ひとつの目安となります。



®K.K

質問3 ひきこもりは病気（病名）のひとつですか？

答え 病気ではありませんが、診断を受けることが望ましい時もあります。



ひきこもりの人には、上図のような様子（状態）があると言われています。

ひきこもりの年数が長くなるにつれて、心身の不調が強まり、ひきこもり当初には見られなかった病気になる人もいます。

反対に、統合失調症やうつ病になったり、もともと発達障害の傾向があった人が、ひきこもり状態になる時もあります。

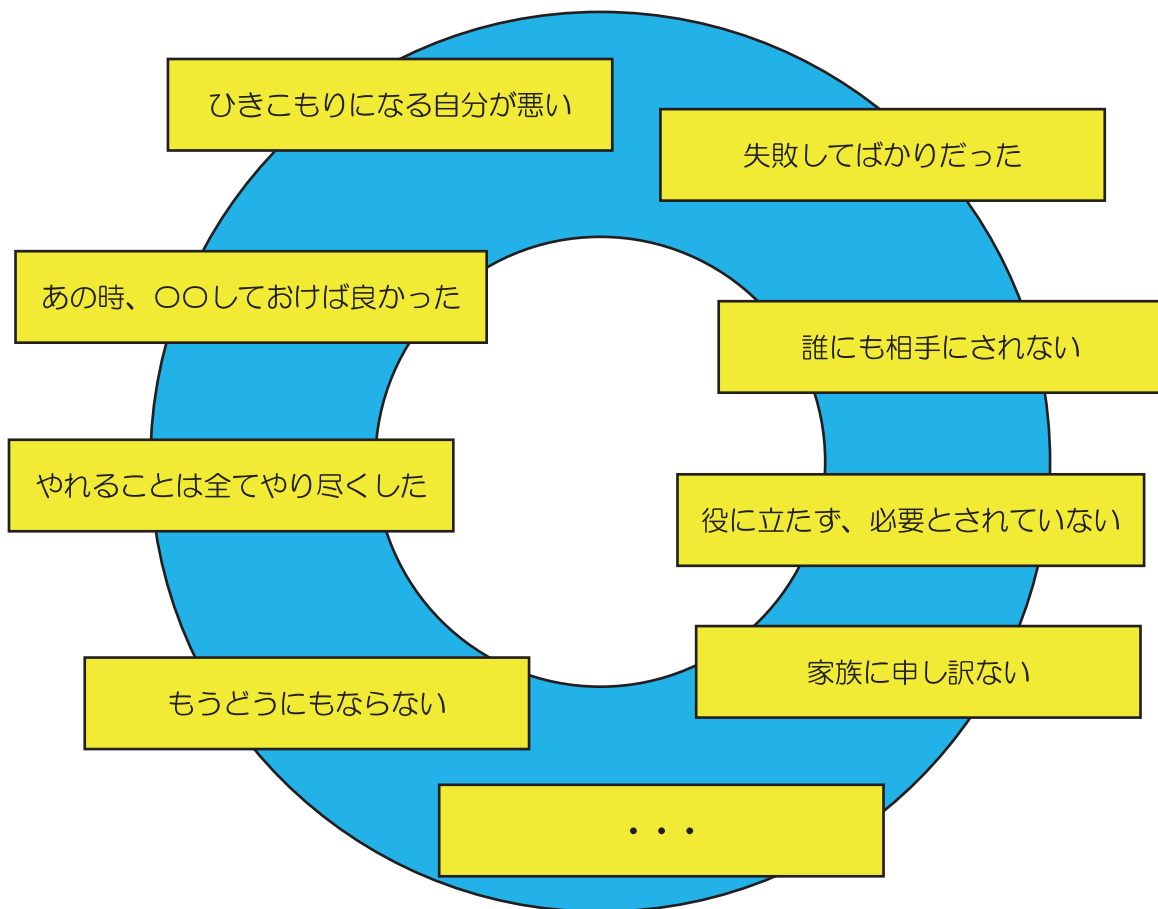
その一方で、診断に至らない「社会的ひきこもり」の人もいます。

気をつけなければならないのは、ひきこもり状態にある人の周囲が、「ひきこもりは病気」「ひきこもりは、うつの薬を飲んだら治る」等、根拠のない判断を下に、ひきこもりに悩む人と接することです。

精神科（心療内科）を受診することは、ひきこもり状態を治すというよりも、ひきこもり状態を和らげる方法のひとつとして、理解できればと考えます。

質問4 ひきこもりの人は、どのような気持ちに苦しんでいるのですか。

答え ご自身の気持ちを、誰からも理解してもらえない孤独な気持ちに苦しんでいます。



ひきこもり状態にある人は、その誰もが自ら望んでひきこもりになったわけではありません。

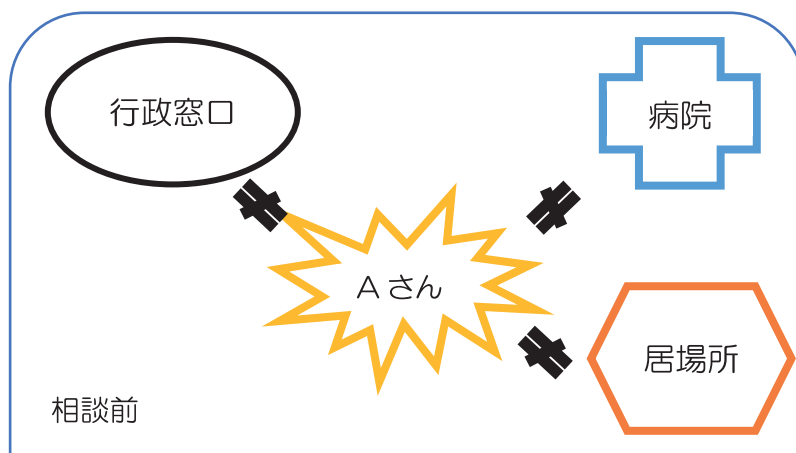
学校や職場で困った時、それを友人や先生、職場の同僚に「困っている」と自ら上手く伝えられなかったこと。周囲にいる人々が、「困っている」ことに気がつかなかったことが、ひきこもりになるきっかけとなったようです。

ひきこもり状態にある人は、上記のような様々な辛い気持ちを持ちながら、その気持ちに蓋をしながらか、日常生活を送っています。

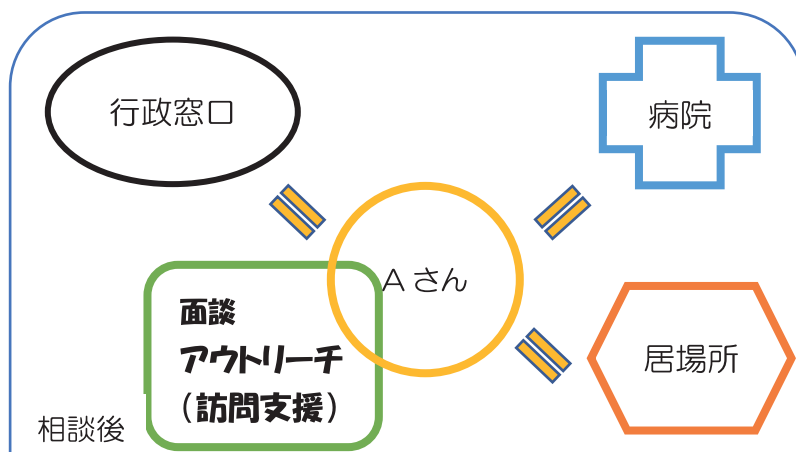
質問5：困りごとを相談すると、どのような良いことがあるのですか？

答え QOL(生活の質)が改善され、元気を取り戻すきっかけとなります。

相談例 Aさん



Aさんは、様々な困りごと（福祉制度が分からなかった。診断がはっきりしない。コロナ禍にて居場所が利用できない）から、再びひきこもり状態になる心配がありました。



そこで、Aさんの困りごとを整理（福祉制度を再度、分かりやすく説明。受診に付き添い、主治医と話し合う。アウトリーチにて、Aさんの話し相手となる）しながら、それぞれの支援を実施しました。

その後、Aさんは福祉制度を利用、通院の必要を理解する、日頃の話し相手を得るなど、生活の質が改善。再びひきこもり状態になることを防ぐことができました。

事業利用者 ありがとうメッセージ ①

～自分の世界が広がりました～

M.W さん（知多半島圏域/女性/10代）



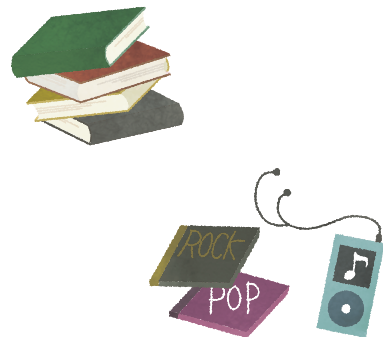
去年の4月、気持ちとしては不安でした。これからどうなっていくのだろうとか、毎日が苦しかったです。それまで好きだった、自分の趣味にも興味が持つことができませんでした。

でも、5月くらいから明治村に行ったり、好きな番組の発表会に行くことができるようになりました。一番嬉しかったのは、周りの人のサポートのおかげで、眠れるようになったり、沢山のことに興味を持って取り組んでみようと思えるようになったことです。今でも憂鬱になる時がありますが、何とか頑張っています！

私にとって、一番の心の支えは母です。疲れていても、興味がなくても、私の話を聞いてくれて、すごく嬉しいなと感謝しています。

そして、ハンターズのスタッフさんとお寺で会って話したり、家まで来ていただいて話したりして、私が変わったことは、「話を聞いてくれる人。自分の趣味に興味を持ってくれる人がいるんだ！」と自分の世界が広がったことです。

ハンターズのスタッフさんには、感謝しかありません。本当にありがとうございます。





事業利用者 ありがとうメッセージ ②
～自信を呼び起こすサポートを得て大学合格～
Y.K さん（知多半島圏域/男性/20代）

高校を卒業して、一年半経った昨年の九月、大学受験を志し始めたものの、計画が漠然としていたり、怠け癖やスマホ依存の気があったことから、自分一人では思うように進めませんでした。

その時、かつてお世話になった支援機関の記事を見て、電話を掛けたのが出会いでした。私からの唐突な連絡であったにも関わらず、すぐに面談の手筈を整えていただけたのは、本当に助かりました。

初回面談の中で、週一回のメール相談と月二回の面談でモチベーションの維持や進捗報告をサポートいただくこととなりました。

相談する以前の自分一人だけの時期は、どうしても闇雲に悩み、気を落ち込ませることが多かったです。でも、スタッフさんという「相手」がいることで、健全に自分について考えることができました。

そして、自分を考えることは、怠け癖やスマホ依存と付き合っていく方法や、受験勉強で今、何につまずいているのかを考えることに繋がりに、それはまた自信へと繋がりました。

この自信のおかげで、思い通りにいかない時にモチベーションを保つこともできたのだと思います。

加えて、メンタルのサポートも大変助かりました。自分のプライドの高さに悩んでいた時、その悩みを自信へ昇華させてくれる言葉を貰い、不安が和らぎました。

おかげ様で無事、大学合格することができました。有難うございました。



アウトリーチ(訪問支援)



アウトリーチ(訪問支援)

～ご本人とご家族の孤立を和らげ、次の一歩を見出す～

アウトリーチ(訪問支援)とは、様々な理由(不登校・ひきこもり・病気・障害など)から、自ら行動、あるいは外出することが困難な方に実施する取り組みのひとつです。

アウトリーチを利用するご本人(ご家族)には、以下のような利点があります。

1. アウトリーチの利点

① 住み慣れた場所(空間)で、家族以外の他者と交流を創出する

ご本人が、家族以外の人と交流する機会を、自宅で得ることができます。

近年では、新型コロナウイルス感染症により、外出が滞りがちな方にも、交流機会として活用されています。

② 手慣れた道具、ストレングスを下に、訪問者と過ごすことができる

もともと話すことが苦手なご本人にとって、訪問者との会話は苦痛になることがあります。

そこで日頃、ご本人が興味を持って利用している様々な道具(本・ゲーム・パソコン・テレビ等)を、会話を補う手助けとして利用することができます。

又、ご本人のストレングス(備わっている力・特技)を活用して、料理や日曜大工等の創作活動を共に行いながら、ひと時を過ごすこともできます。



®K.K

③ ご本人(ご家族)の孤立を防ぎ、これからの展望を見出す一助となる

ご本人(ご家族)が困りごとを抱え続けていると、ご本人とご家族が不仲になったり、それぞれの孤独感が深まることがあります。

アウトリーチを活用することによって、困りごとにすぐに向き合うことは難しくても、訪問者と少しずつ信頼関係を結ぶことによって、困りごとの緩和・解消を考える機会を、いつでも見出すことができます。

2. アウトリーチ実施の注意点

アウトリーチ（訪問支援）を実施する際、訪問者には、以下のような点に注意が必要です。

訪問の同意（了解）を得る

訪問の対象となる方で、特にご本人がひきこもり状態の時、訪問者は訪問して良いかどうか、事前にご家族を通じて、ご本人から同意（了解）を得ることが大切です。

もし「来ても良い」との返事を得ることが、当初難しい時には、訪問者はハガキ等をご本人に送り、その人となりを知らせることを優先に取り組み続けます。



®K.K

目的は、ご本人と和やかな「ひと時」を過ごすこと

アウトリーチの目的は、ご本人が訪問者と和やかな「ひと時」を過ごすことです。ご本人は、訪問者に慣れてくると、様々な気持ちや本音を話していただきますが、訪問者自身の考え（価値観）を返すというよりも、ご本人を知る一助として聴く耳を持ち続ける姿勢が望まれます。

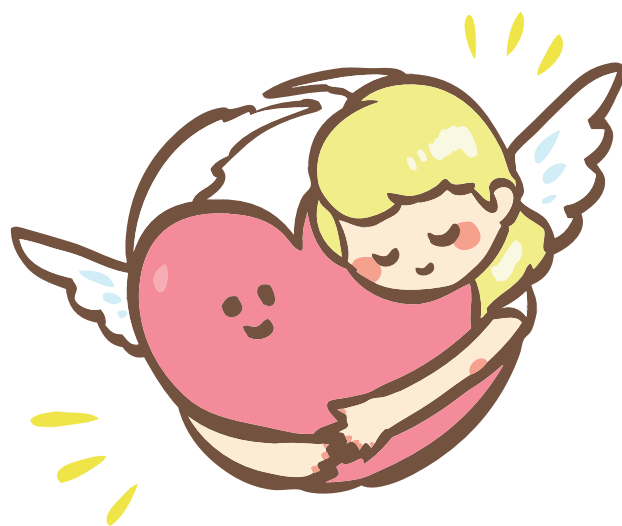
訪問者は「入口」の役割がある

アウトリーチは、それだけで成り立つ活動ではありません。訪問者は、ご本人やご家族を支える「入口」として、いつの日かご本人やご家族の希望をかなえる人との仲立ちをする役割が望まれます。

そのためには、ご本人やご家族と少しずつ少しずつ信頼関係を築くアウトリーチが求められています。

その人を支え 続ける

(相談援助の方法)



話して(相談して)みようと思える エンゲージメント

～Bさんのケースから～

Bさん（年齢：40代）

困っていること

- ・体調不良が続いている。
- ・利用できる医療・福祉制度を知っているが、障害者と見られることに抵抗感がある。
- ・相談したい気持ちと、相談したくない（頼りたくない）気持ちがある。

後々の希望

- ・働いて収入を得たい。両親の苦勞を減らしたい。

Bさんには、周囲の人々から「障害者」とみられることに強い抵抗感がありました。

又、「人に迷惑をかけたくない」という気持ちから、出向いた場所で相談を続けることが難しく、いつも辛い気持ちを抱えていました。

そこで、Bさんに相談を続けていただくために、社会福祉の援助技術であるケースワーク（個別援助技術）を活用して、以下の工夫を図りました。

① いつも穏やか丁寧に（非審判的態度/統制された情緒的関与）

「同じようなご質問でも、遠慮なさらず仰ってください」「話すのが苦痛でしたら、始めはメールでも大丈夫です」等、Bさんに余計な不安や緊張を与えない伝え方を工夫しました。

② お喋り（雑談）の時間を設ける（意図的な感情表現）

「オリンピックは、どの選手を応援されますか」「Bさんの好きな食べ物は何か」等、相談と直接関係のない話題も時折取り入れ、Bさんがリラックスできたり、辛い気持ちを「置く」時間を設けました。



③ その選択はご自身でする（自己決定の尊重）

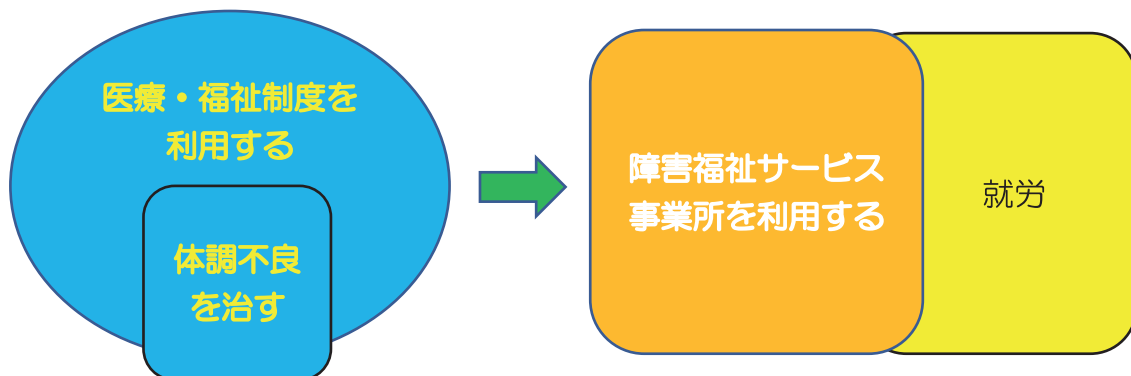
相談する中で、「私は、どうしたら良いでしょうか…」と尋ねられた時、「Bさんはどうしたいと思いますか？」と尋ね返したり、「それには、Aという方法とBという方法があります」と説明。

どの方法を選ぶかはBさんであること。その選択を待ち続けることを伝えました。

相談を通じて、Bさんは「私の気持ちを、いつも応援（支持）してくれる」「すぐに決断できない私でも非難されない」「私のペースで取り組んで良いのだ」という実感を、少しずつ得ていきました。

その実感が、障害者とみられることに未だ抵抗感がありながらも、ご自身の辛い気持ちを和らげる一歩（医療・福祉制度の手続きに至る）となりました。

現在は、医療・福祉制度を利用しながら療養できるようになり、次の目標を見据え取り組んでいます。



補足：専門性に基づく相談援助

日常生活において、困りごとがある人へのサポートのひとつとして、社会福祉の援助技術であるケースワーク（個別援助技術）が役立つことがあります。

その人によっては、「相談する」という行いそのものが、負い目を感じたり、不安や緊張が強いられる場合があります。

すぐに出ない、出せない答え（方法）を、時間がかかっても一緒に考え続けることができる人が、今の地域社会で求められています。

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●
事業利用者 ありがとうメッセージ ④
～これからも、僕の愚痴を聞いてくれたら嬉しい～

S.T さん（名古屋市/男性/60代）

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●



僕は、物心ついた時は養護施設に居ました。だから、父親はもちろん、母親の記憶もありません。天涯孤独の独り身です。

コロナ禍になって、作業所（就労継続支援 B 型事業所）にもなかなか通いづらくなり、家に居ることが今まで以上に増えた分、独り身が身に染みて孤独を感じる事が多くなりました。

そんな時、以前お世話になったスタッフさんから、ハンターズの訪問支援を聞いて、何度かお世話になりました。若い頃に食べて美味しかった北海道のカニ弁当を買いに、物産展まで連れて行ってもらいました。この歳になると、出不精になるというか、独りで繁華街に行っても全然楽しくないけど、カニ弁当はとっても美味しかった。熱田神宮の紅葉を観に連れて行ってもらった時は、銀杏並木がすごく綺麗でした。僕は多少、写真を撮るもんだから、撮った写真を家のテレビ画面に写したら、それはもう素晴らしかったです。

孤独には慣れたと言いたいたいところだけど、やっぱり寂しい。そんな時、吐き出せるというか、安心して愚痴が言える人がいるって、すごく大事だと思う。この前も、愚痴が言いたくなって電話したんだけど、その時は話せなくて。でも、後から掛けなおしてくれて。「うんうん、そういうこともありますよねー」とか「えー、それはないでしょう！」とか、話せるだけでも、その日の過ごし様が随分と変わってくる。ありがたいと思います。

作業所のみんなもそうだけど、今の僕にとってはハンターズも欠かせないサポーターです。これからも、僕の愚痴を聞いてくれたら嬉しいです。



ちたハンターズ 紹介



ウィズコロナにて苦悶・奮闘するアナタへ 人と繋がる 入口 私たちが届けます



ちたハンターズは、2020年8月に設立された
福祉と街づくりの団体です。

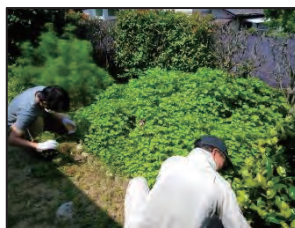
SDGs(持続可能な開発目標)の下、「知多半島に住む・訪れる人に
健康と福祉を」という理念を掲げ、様々なサービスを実施しています。



「学校に行かなくなった」、「ひきこもる本人にどう接して良いか分からない」、「親が亡くなった後、この子は生活していけるだろうか」といった困りごとや、精神障害における様相談も行っています。

又、ひきこもりや障害に関わらず、その人の傍が楽になる(働く)場所を見つけます。

住み慣れた地域で、負い目を感じることなく安心して暮らす毎日を。
どんなことでも、お気軽にお声がけください。



サービス内容

- ☆ 不登校、ひきこもり、障害の相談・訪問・啓発
- ☆ 社会参加・就労体験の提供
- ☆ 職場定着コンサルティング
- ☆ 地域の「困った」を解決する街づくり
- ☆ 行政・保健・福祉・医療など、各機関との協働

資料



街の和尚様・ソーシャルワーカー 双方向ディスカッション

大善院かんのんいち番外企画 紙面報告（本文28頁～補足有）

日時・場所

令和3年11月6日（土）午後12時～午後1時・大善院境内（愛知県常滑市）

開催元

大善院かんのんいち事務局 / 非営利任意団体 ちたハンターズ（共催）

開催目的

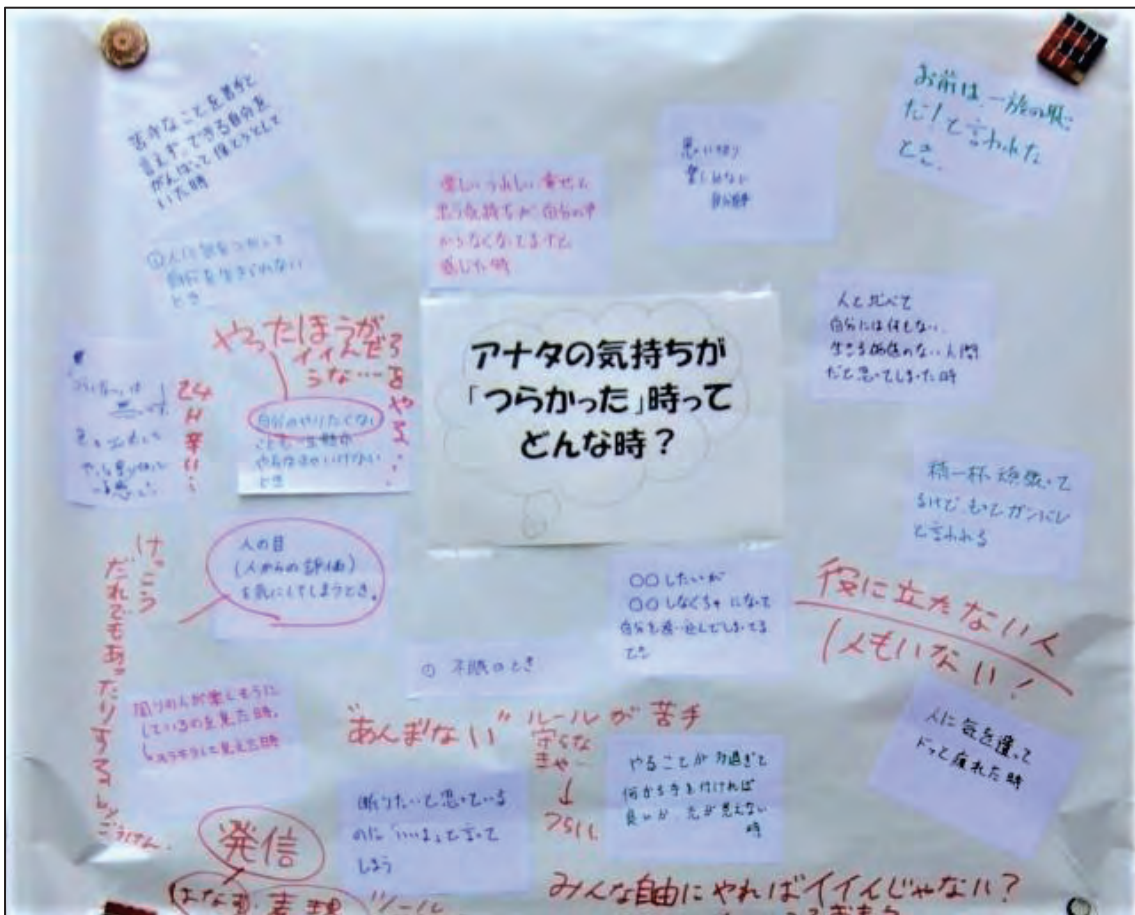
- （1）日常生活において生きづらさを感じた時、より気軽に発信・相談できる、日頃からの人づきあいについて、近隣地域に住む人と共に考える。
- （2）ひきこもりについて、正しい知識と情報を得る。

参加者

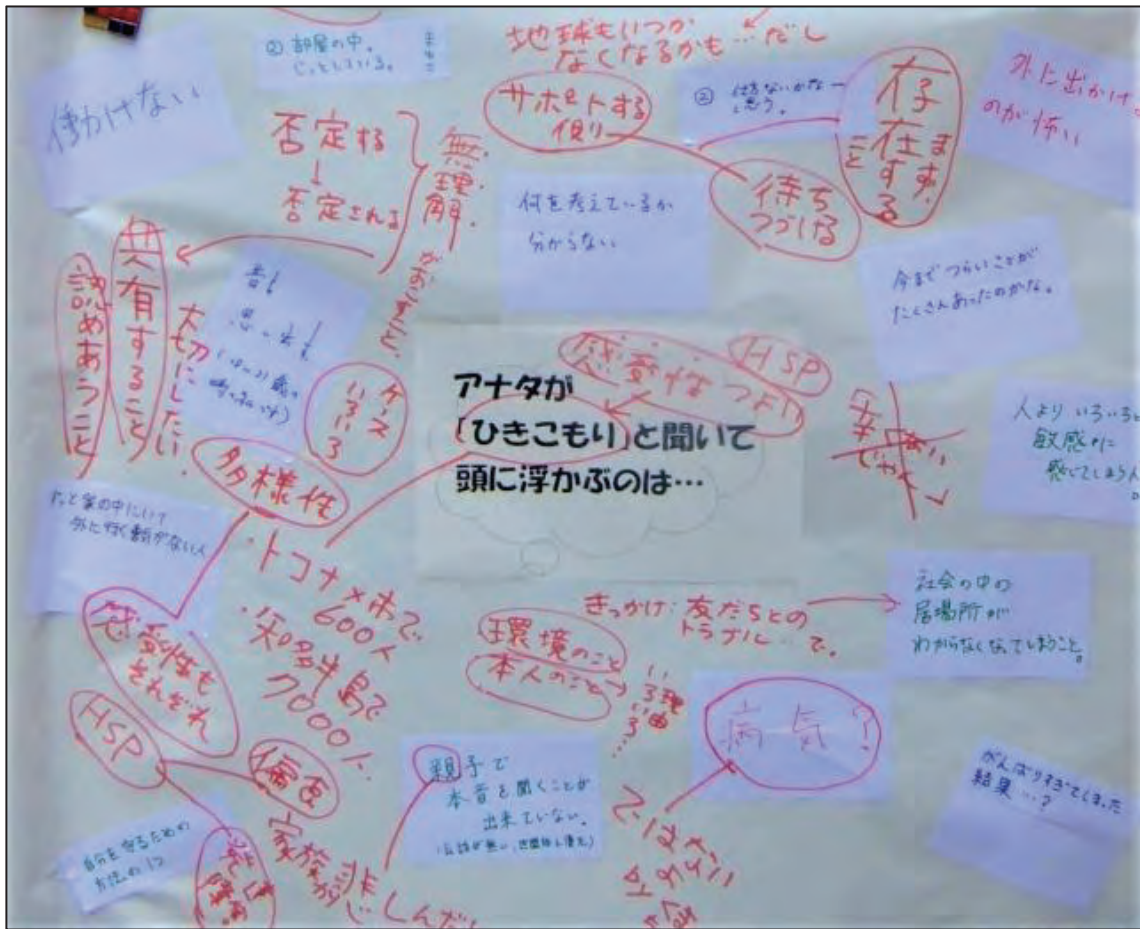
約50名（アンケート回収20名）

当日スケジュール

10時～ かんのんいち来場者から、①②についてラベルシールに記入願う。



①アタタの気持ちがつらかった時って、どんな時？



②あなたが「ひきこもり」と聞いて頭に浮かぶのは…

12時 ～ 企画開始

- 司会者挨拶 (かんのいち事務局/守山華子氏)
- 登壇者紹介 外山果見氏 (大善院住職)
熊倉純一氏 (ちたハンターズ/社会福祉士)
- ①②メッセージを下に、ディスカッションを始める。
- ディスカッションを聞いた参加者の皆さんから、質問や意見を募りながら、会場全体でディスカッションする。

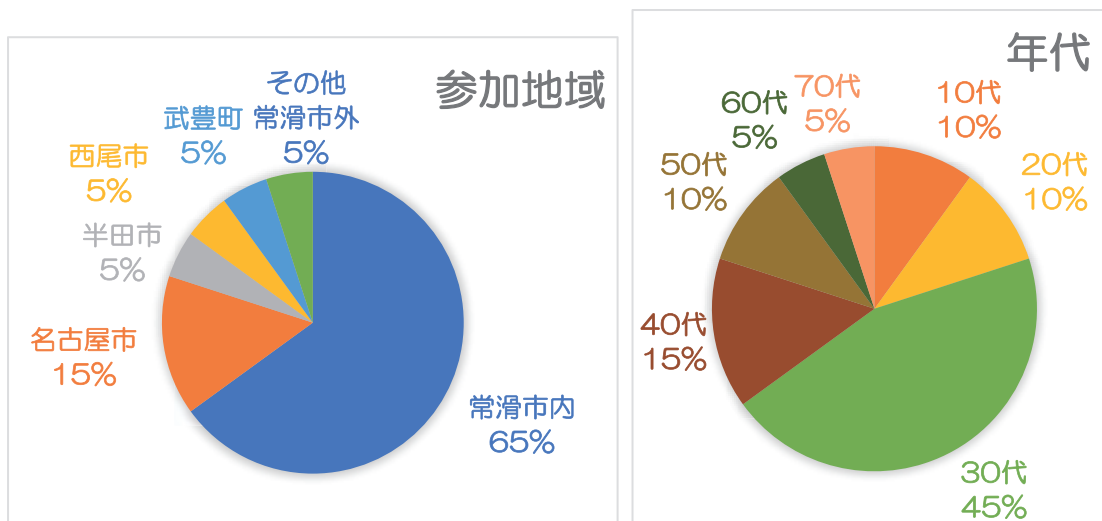
12時50分～ 登壇者感想 司会者まとめ

参加者に、企画アンケートへの記入を依頼、回収

取材

- 中日新聞 中部空港報道局 (高田氏)
- (株) 知多半島ケーブルネットワーク (長谷川氏)

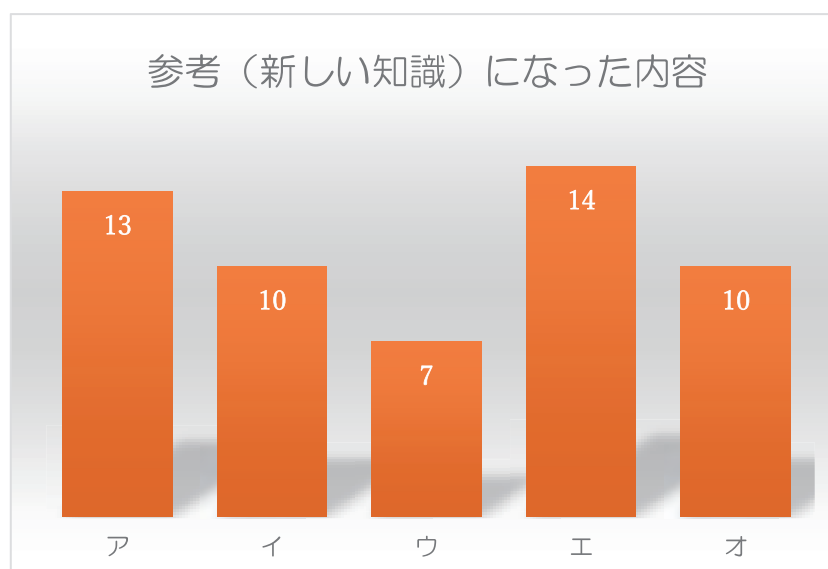
アンケート集計（有効回答数：男性 9 名 女性 11 名 計 20 名）



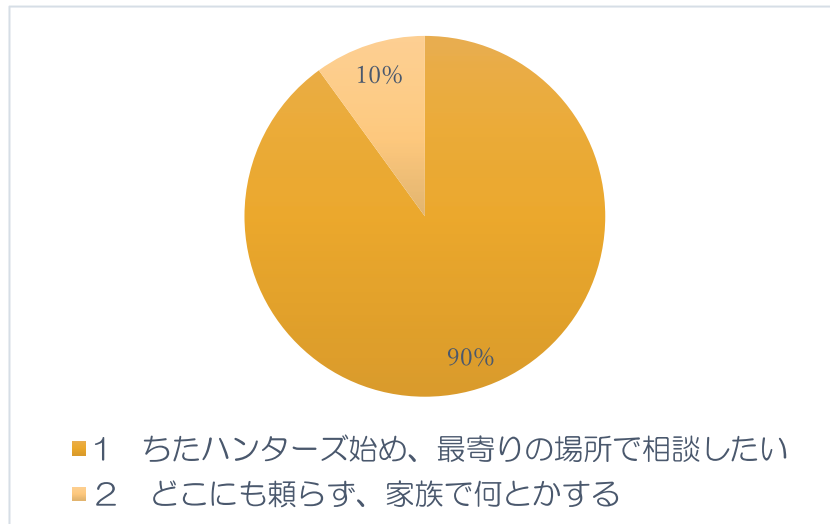
- 1 企画は、ひきこもりを理解する良い機会となりましたか？
参考（新しい知識）になった内容（以下複数回答）



- ア：ひきこもりの人は、誰もが抜け出すチャンスがあること
イ：ひきこもりは、病気ではないこと
ウ：家に居るだけが、ひきこもりではないこと
エ：ひきこもりの人が、常滑市においても約 600 人いること
オ：ひきこもりのイメージ（ひきこもりを含む社会）改善が必要なこと

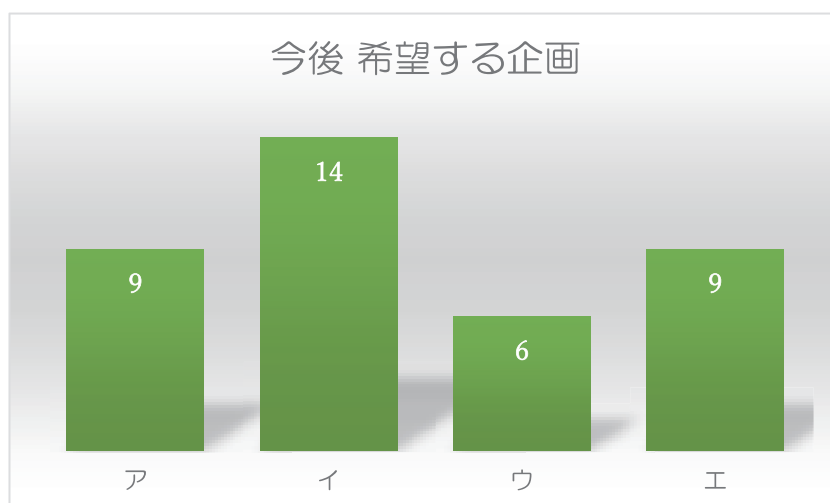


2 あなたの家族が、ひきこもりになったらどうされますか？



3 ちたハンターズでは、今後も共生社会に関する催しを企画します。どのような企画を希望されますか？

- ア：8050 問題（ひきこもりの長期・高年齢化）を知る企画
- イ：ひきこもり経験者の体験談
- ウ：精神・発達障害を知る企画
- エ：精神・発達障害を持つ方の体験談



自由記述(一部抜粋)

- 普段、なかなか聞くことができない、話せないことを聞くことができた。こう、胸に迫るものがあった。
- 私は、障害者に教える学校で働いていたことがある。障害を持つ人と自分を区別することに違和感を感じて、今は障害を持つ人と共に働いている。これからも、ノーマライゼーションの心持ちで臨みたい。
- 今日初めて、人前で自分の過去、ひきこもっていたことを話すことができた。良かった。有り難うございます。
- 辛いとか辛かった時は、人によって感じ方が違う。辛いという見方を変える方法を皆で分かち合っていきたい。



生きづらさ 共に考えよう

常滑・大善院でイベント

それぞれが感じる「生きづらさ」とどのように向き合えば良いのか、参加者も一緒に考えて考えるイベントが六日、常滑市奥条の大



住職ら登壇 来場者と対話

来場者の意見をもとに、生きづらさについて語る熊倉さん(左)と住職の外山さん(右)＝常滑市奥条で

さんが登壇。事前に来場者から集めた「つらかった時」「引きこもりのイメージ」の意見をもとに、対話形式で進められた。

熊倉さんは「引きこもりは病気？」との意見に触れ、「決して病気ではないし、暴力をふるう、部屋が汚いなど報道で見聞きするようなら人ばかりではない」と説明。外山さんも「自分の価値観に合わないからと相手を否定、排除するのではなく、互いに許容し合う社会があれば」と話した。

また、かつて引きこもりだったという来場者の男性らも発言し「悩みを『そんなの大したことない』と言う人がいたが、本人と周囲の感じ方は違つと知ってほ

しい」などと語った。

熊倉さんは「自分は社会福祉士だが、われわれの勉強会や研修会は同業種間の開催になりがち。一般向けに開くことで、誤解を解いたり、課題を解決したりする一歩になれば」と話した。(高田みのり)

木の山芋の収穫始まる

大府「畑のウナギ」

強い粘りけが特徴で大府市の木の山地区で栽培されている特産「木の山芋」の収穫が四日、同市共和町の木の山生産組合長、山口康幸さん(五七)の畑で始まった。

栄養価が高く「畑のウナ

※ この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています



Hunter 通信 Vol,5 2021/11/22



知多半島に住む訪れるすべての人へ 健康と福祉を！

実は・・・私もひきこもりでした



11/6 大善院かんのんいち
街の和尚様・ソーシャルワーカー
双方向ディスカッション
盛況裏に終了！

かんのんいち、愛知県常滑市奥条にある寺院（大善院）にて、奇数月に催される昔ながらの縁日です。ハンターズは今回、その場をお借りして、ディスカッション企画を開催。30名を超える皆さんから参加いただきました（詳細2～3頁）。

その成果 少しずつ ～ R3年度ワム事業 Thanks Message ～

安心して相談できる人ができた（30代女性/知多半島圏域）

利用したサービス：訪問サポート（学習支援&生活相談）

勉強をひとりで行っていた時に比べ、分からないことを聞けて、なおかつ私が理解するまで根気よく教えてくれたおかげで、嫌いだっただ数学が少し好きになりました。

さらに、相談事があると聞いてくれて、様々な角度からの考えを提示してくれたことで、安心して相談できる人が増えました。ありがとうございます。



息子も自ら、剪定してくれました（Y.Kさん/知多半島圏域）

利用したサービス：もちもたボランティア（自宅庭の景観整備）

7月と9月に庭の草刈りをお願いしました。家の者では手に負えなくなってしまい困っていたところ、いただいたチラシ(6頁参考)を見て、「これだ！」と思いました。



おかげ様で、気になっていた所がスッキリ！有難かったです。後日、息子も自ら、庭木の剪定をしてくれたのにはとても驚きましたが、とても嬉しかったです。家族以外の人が入ることによって、良い刺激があるのかなと思いました。これからも、ちたハンターズの皆さんのお力をお借りしながら、少しずつ前に進んでいけたらと思っています。





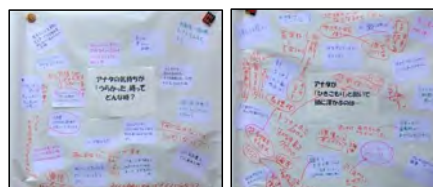
Hunter 通信 (Vol.5/2021/11/20)

街の和尚様・ソーシャルワーカー双方向ディスカッション(抜粋)

(令和3年11月6日・土・12時~13時)

ひきこもりは病気ではない

守山：この企画が始まる前、皆さんから「アナタの気持ちがいらい(辛い)と思う時は、どんな時?」「ひきこもりはどんなイメージ?」という質問へメッセージをいただきました。



熊倉：真っ先に目に飛び込んできたのは、

「ひきこもりは病気?」というメッセージでした。これは、親御さんが特に心配されることです。長い間のひきこもりによって、何らかの病気になることはあります。しかしながら、「ひきこもりすなわち病気」ではありません。

守山：これは、しっかり理解しないとイケないですね。和尚さんは、いかがですか?



外山さん

外山：人の目が気になったり、気を遣いすぎて生き辛くなるのは、決して珍しいことではないのかなと。ひきこもりになる人は、感受性が鋭いと思っています。私ごとですが先月、食べた時に歯の被せ物が取れて、歯医者さんでスポッと抜かれてしまいました(笑)。今ではこんな風に…(マスクを取る)。

会場：笑(驚きとともに)。

外山：始めは、見た目が気になるんです。これじゃ、吉本新喜劇みたいになって。でも、おもしろいことにすぐ慣れちゃう(会場から「全然、違和感ないですよ」の声)。ひきこもりになる理由は様々あるとは思いますが、人の目を気にするというのは、少なからず皆にあると思っています。

ひきこもる人にも、色々な人となりがある

熊倉：外山さんから今、見た目というお話を頂戴しました。ひきこもりと言うと、あきらめだったり、先ほどお話にあった恥ずかしいというイメージがあります。その一方で、ひきこもりの人を含め、人にはそれぞれ「人となり」があります。

これまで、私が出会ってきたひきこもりの皆さんは、人に優しい。親御さんを送り迎えする。家族の衣類を洗濯をしたり、お風呂場や部屋を掃除する方がいました。

守山：意外です…。そうなんですね。

熊倉：動画やニュースでは、ひきこもる人は部屋が散らかし放

題、親御さんに手を上げる内容が、刺激的に取り上げられています。でも実際は、色々な人となりを持っていて、必ず長所を持っている。それが、私の印象です。

ひとりひとりが、違うからこそ

守山：いろんな見方と言うと、金子みすゞさんの「みんなちがって、みんないい」という言葉があります。でも、例えば仕事で、自分はひと区切りつけたいんだけど、相手に終わりが見えない時、そうもいけなくなる(苦笑)。そのせめぎ合いというか、お互いの違いどこを出し合うというのも大切ですね。





Hunter 通信(Vol.5/2021/11/20)

熊倉：ひきこもりは、負い目となるので、相談しづらいのは道理です。となると、ハンターズを含む福祉機関だけでは限界がある。そこで大切となるのが、今日ここにいらっしゃる皆さんのような、地域に実際に住む方々です。皆さんが、ひきこもりについて、正しい情報や理解があり、「ひきこもりは悪くないよね」と。それは、お住まいの地域で言葉にしなくても、少なからず雰囲気伝わります。それによって、ひきこもりに悩む皆さんの気持ちが楽になり、相談してみようという気持ちに変わってくれたら…。そのように考えています。

守山：かんのんいちという「祭り」で人が繋がる。ハンターズのような相談機関が地元にある安心感。そこから、ひきこもりに悩む方が何かきっかけを掴めるようになる。大事だと思ってます。

自分自身がひきこもりでした

守山：ここで、参加者の皆さんからもお話を頂戴します。

Aさん：私の家は、兄が10年間ひきこもりでした。当時は、母が「私の育て方が悪かったから」と自身を責めて、それを私も目の当たりにした時期がありました。その後、家族で協力して兄を支え、兄はひきこもりから抜け出しました。

私は、母は悪くないと思っています。同じ子である私は、無事に過ごすことができている(笑)。そのような経緯にて、企画には興味があって参加しました。

Bさん：私は、実は自分自身がひきこもりでした。ひきこもりとは言っても、その人それぞれのしんどさがあります。私は働いていた職場で、理不尽なことを言われ続けて辞めたことがきっかけでしたが、それはあくまできっかけに過ぎません。その前から、学校などの人間関係で悩み続けてきた。でも、平気な顔をして過ごしていたんです。それが、一挙に吹き出てきた感じでした。

今思うのは、感受性は人それぞれなので、まずはそれをお互い、表に出さないことには、前に進めないんじゃないかということです。

それもありじゃない？と伝える

外山：お邪魔してお家で、「ひきこもりかな…」と思う人がいたことがあります。ひきこもりになった原因を無くして、解決だけしようと答えを探すと、かえって抜け出すことが困難となる。ひきこもりを無くすというより

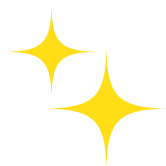


も、それを共有する。受け入れることかと思えます。自分の価値観に合わないから排除・否定するというより、「それもありじゃない？」という考え方を、本人や家族に伝えていく。そういった人をご近所や地域で増やしていくことだと思えます。

守山：これまで、皆さんから出てきたようなお話をする時間を日頃、自分の生活の中で設けているか。今日の企画で、それが投げかけられた気がしました。かんのんいちでは安心できる場だからこそ、皆さんも話しやすかったのではないのでしょうか。こういった場を、これからも増やしていけたらと考えています(終)。



守山さん





Hunter 通信(Vol.5/2021/11/20)

ちたびと vol.5

とこなめ南部高齢者相談支援センター
管理者(社会福祉士) 廣瀬 涉さん

日頃、知多半島にて活躍されている人を紹介する「ちたびと」。

今回は、地元の高齢者の皆さんが、日々安心して暮らす一助を担う現場人、廣瀬さんです。

漁港やお寺が多い地区

熊倉： 日頃、廣瀬さん始め、職員の皆さんが担当する、地域の特色はどこなところでしょうか？

廣瀬： 行政区としては、大谷地区や坂井地区はじめ 10 か所あります。そこに 65 歳以上の方が、約 3,000 人くらい暮らしています。漁港やお寺が多く、昔ながらの景色がまだ残る地域というところが特色です。

お世話は、できるだけ避けたい

熊倉： 近頃では、どんな相談がありますか？

廣瀬： 本来は、介護サービスが必要と思われる方に対して、ご家族が気づいていない相談があります。例えば、親御さん、息子さんがそれぞれひとりというお家です。親御さんが以前よりお風呂に入らない、身なりに気を遣わなくなった。しかし、その変わり様に息子さんが気づかれない…。

熊倉： 息子さんも余裕がない…？

廣瀬： そうなのだと思います。息子さんが帰ったら、いつもの晩御飯が支度されてない。そこで「おやっ？」と申していただけたら良いのですが、息子さんも疲れている分「親も歳とったなあ」という印象に留まってしまう。

「ひょっとしたら介護が必要？」と気づきにくいのでしょうかね。

(廣瀬さん センター前にて)

熊倉： 珍しいお話ではありませんね。



(廣瀬さん センター前にて)

廣瀬： 高齢のご夫婦だけのお家では、奥さんが料理を作らなくなったけど、買って済ませていた。旦那さんが、奥さんを抱えてトイレまで付き添っていらっしゃるのに、旦那さんご自身が大変だと思っていないケースもあります。

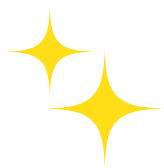
熊倉： 「人からのお世話は、できるだけ避けたい」という思いは、ひきこもりの相談と似ています。難しいところですね。

廣瀬： そうですね…。それでも、私たちは、介護サービスの利用に繋がることができれば、ある程度のゴールは見えてきます。一方、ひきこもりのゴールは、あるようでないようなイメージがあります。

熊倉： 仰る通りです！

廣瀬： ひきこもりの場合、親御さんのご希望が「普通に暮らして欲しい」というものだとしたら、それに至るまでサポートが必要です。終わりが無いというか、ずっとお付き合いしていく支援ですね。

熊倉： そうですね。私が担う方の中には、10年以上のお付き合いも珍しくありません。だからこそ、ご本人やご家族が、より気軽に話しやすい強みを、活かすことができればと思っています。





他機関との協働・連携

熊倉： 日頃のお仕事で、もどかしい
何とかならないか、と感じるの
は、どんな時でしょうか。

廣瀬： 他機関との協働、連携です。
私たちに寄せられる相談の中
で、ご息が仕事をしていな
い。その様子も何か気がかり…
といった時があります。

熊倉： 高齢者支援（介護サービス）
に該当しない方ですね。

廣瀬： その時、私たち以外のどこが
関わったら良いかを考え、実際
に他機関に相談します。

すると、「うちは障害者が対象
です」「ご本人が希望されたら訪
問できます」といった回答が少
なくなくて…。

熊倉： 国は今、重層的
支援整備体制事業¹
を掲げ、知多半島
各自治体も取り入
れつつあります。
しかし、温度差も
あります。



廣瀬： 私たちもケアマネさんも、先
のような場合、気持ちとしては
心配できても、具体策が描けな
い苦しさがあります。

熊倉： 今後、そのような時には、ハ
ンターズへお声がけください。

廣瀬： よろしくお祈りします！

困っている人と人を繋いでいく支援

熊倉： 相談支援センターを担うやり
がいは、どんなところでしょう
か？

廣瀬： 私は、もともと高齢者の方と
お話するのが好きで、楽しいで
す。その方との関わりを続けてい
くと、少しずつ人間関係ができて
きます。「電話だけなら大丈夫」と
仰っていた方が、「今度は家に来て
良いよ」と言っていたら嬉し
いですね。

熊倉： 丁寧な関わり、お付き合いが
あればこそですね。今後、ど
のような相談支援センターで
ありたいと思いますか？

廣瀬： 先のお話にもあった重層的支
援。いわゆる「断らない相談窓
口」を目指したいです。それを
実現させていくには、私たちの
人員体制では不十分です。

熊倉： となると、やはり他機関との
連携が大切になってきます。

廣瀬： 常滑市には、介護への理解は
じめ、地域にある様々な困りご
とを支えたいという、気持ち
を持つ人は多いと思います。

そういった方を始め、福祉分
野以外の人にも繋げていけるよ
うな業務を目指したいです。

取材後記

廣瀬さんのお話は分かりやすく、現場の様子がありありと伝わってきました。
又、相談に訪れる人に安心感を与え、気軽に困りごとを話すことができる雰囲気
も、そのお人柄から垣間見ることができました。

これからも頼りになる連携機関として、様々な場面において相互に協力していく
ことができれば幸いです！（熊倉）

¹ 重層支援整備体制事業：制度・分野の枠、「支える側」「支えられる側」という従来の関
係を越えた、人と人の関わりを創り出す事業。「断らない相談支援」。社会との繋がりを見
出す「参加支援」などがある。





お知らせ

ホームページ公開中

ちたハンターズでは現在、ホームページを担当しています。ホームページの製作で日頃、気にしている事は、できるだけ多くの人の目に入るようにする事です。サイトを開く性能が高くないパソコンやスマホでも見られるように、ある程度内容を絞ったページ構成がベストだと考えています。

「ちたハンターズ」と検索して、結果に出るようになるまでは、少し時間がかかり苦労しましたが、最近では出てくるようになりました。一度、ご高覧ください (K.M)

ワム助成「コロナ禍で声をあげにくい人々が、相利共生にて自信を取り戻す事業」 サービス一覧

◇ひきこもりを始めとする各種相談◇

内容：不登校、ひきこもり始め、各種障害、就労など

◇訪問・同伴の各サポート◇

訪問内容：話し相手、料理を教える等

同伴内容：散策、運動、買い物、通院、行政窓口ほか

開設時間：月～金 9時～15時（土日祝日をのぞく）のうち60分

料金：生活保護・非課税の方 無料 / それ以外の方 3,000円～



◇もちもたボランティア（地域の困りごとを解決する活動）◇

内容：草取り、枝うち、網戸の張り替え、農作業など

時間：月～金 10時～14時の間にて1～2時間程度

料金：要員ひとりあたり500円～ または現物（野菜など）

備考：作業は、新型コロナウイルス感染対策の下で実施

必要道具はハンターズが持参 要員はボランティア保険加入

ハンターズ サポーター(会員)を募集中！

法制度の谷間を埋める、ハンターズの活動を応援くださる皆様を募っています。
あなたの気持ちが私たちの力となります。よろしくお願ひ申し上げます。

出資金(会費) ひと口1,000円～

振込先口座：三菱UFJ銀行 武豊支店 普通 3576908

クマクラジュニイチ

非営利任意団体 Chita Hunters(ちた ハンターズ)

〒479-0821 愛知県常滑市瀬木町 2-80

電話：090-8732-1515(月～金 9時～18時)Eメール：freedom225@xj.commufa.jp

ホームページ：<https://chita-hunters.wixsite.com/chitahunters>

—— 巻末に添えて ——

非営利任意団体 ちたハンターズ 代表理事 熊倉純一

ひきこもりは今、私たちが暮らす社会で大きな問題のひとつとなっています。人はなぜ、ひきこもりになるのでしょうか。ひきこもりから抜け出すためには、どうしたら良いのでしょうか。その理由と方法について、インターネットで検索すると、枚挙にいとまがないほど出てきます。

その一方、地域で出会った、ひきこもりとは直接関わりのない方々とお話する中で、「ひきこもりは病気ですよね」「ひきこもりになるのは、親の育て方が悪いからだ」などの誤解が、未だに根強くあることを痛感しました。

加えて、「相談するのは恥だと思っていました」という負い目から、ひきこもり状態が長期化せざるを得なかったご家族のお話も伺ってきました。

この度の報告集は、ひきこもりへの誤解を解き、正しい知識を得る手がかり（入口）のひとつとすること。広く一般の方々と共に、相談しやすい環境づくりを考えていけたらという目的の下、編集・発行させていただきました。

ひとりでも多くの方に報告集をご高覧いただき、ひきこもりを始め、地域での様々な困りごとに共に関心を持ち、考えていくことができれば幸いです。

最後に、報告集作成の機会を与えていただいた、独立行政法人福祉医療機構の皆様へ、心より感謝申し上げます。



発行日 令和4年3月31日
発行者 非営利任意団体 ちたハンターズ
〒479-0821 愛知県常滑市瀬木町2丁目80番地
TEL:090-8732-1515
E-mail:freedom225@xj.commufa.jp
印刷所 合資会社 誠進社
〒479-0829 愛知県常滑市本町1丁目35番地
TEL:(0569)35-2025 (代) FAX:(0569)34-7577
E-mail:prs@seishinsya.co.jp